

学校教育目標		自ら考え行動し、共に学び、豊かな心をもつ子どもの育成		重点目標	わかる・できる子どもの育成 平原が好きな子どもの育成	自己評価		学校関係者評価	改善計画
重点目標	評価計画		成果指標	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
重点目標に関する評価	わかる・できる子ども ～標準学力調査の前年度越えの児童8割～	○算数科において、「わかる」が実感できるよう、「まず量、次に質」の授業を積み重ね、「3つの問題」を解く時間を確保した学習展開を行う。 ○算数科において、課題に対する解決のために、具体物や図等と関係付けながら考える時間を設定する。 ○基礎学力の定着のため、平原タイムの充実を図る。学習形態や取組内容(タブレットドリル、チャレンジ問題等)を工夫する。 ○ペアや班、全体などで自分の考えを説明し合う時間を設定する。	○3問以上の問題に取り組むことができる子ども(教師・児童評価 平均3.2以上) ○問題を解くときに、絵や図等を使って考える子ども(教師、児童評価 平均3.2以上) ○「分かった」「できた」ことが増えたと思う子ども(児童評価 平均3.2以上) ○自分の考えを友達の考えと比べ、よりよいものにできる子ども(教師、児童評価 平均3.2以上)	4 4 4 4	○算数科における3問以上の問題を解くことを、昨年度から継続して取り組んだことで、学力の定着にもつながってきている。 ○図や絵にかいて考えさせることで、立式までたどり着く児童が増えてきた。 ○「わかった」「できた」ことが増えたと思う児童が増え、基礎学力の定着を図ることができた。 △ペア・グループ・全体と形態を変えながら交流することを通して、学び合い活動が定着してきたが、今後、考えを深めることが課題である。	A A A A	・自己評価は適切である。 ・授業中の雰囲気は全体的に落ち着いていて集中力を感じた。 ・昨年度より学力が向上しているので継続してほしい。 ・職員の意識を統一させることが難しい中で、共通実践できたことが結果につながったと思う。 ・学力の伸びが見られ、先生方の努力を感じる。 ・算数の結果が全国平均を上回っていることは、非常に良い成果だと思う。	・3問以上の問題に取り組むことを通して学力の向上が見られたので、今後は質への転換を図っていく。 ・協働的な学びを授業の中で推進し、相手へ「伝える」ことへの意欲の向上を図る。 ・帯活動におけるタブレットの活用を充実し、漢字や計算の基礎的な力を定着させ、記述式・活用問題等にも慣れることを目指す。 ・学習形態の工夫として、TTや習熟度別学習等、個に応じた指導を充実させていく。	
	平原が好きな子ども ～学級や学校、地域をよくするためにすべきことを考える8割～	○学級での係活動や、高学年における委員会活動等において、誰かのために進んで働くこと姿を認め、称賛する。 ○毎月の生活目標において、具体的な月目標の設定と、振り返りの結果に応じた目標設定を行う。 ○学級や学校、地域をよくするための行動のよさを実感させるため、各行事や地域と連携した活動への参加・参画を奨励し、児童の頑張る姿をMボードや全校朝会で紹介していく。 ○縦割り活動や異学年交流による交流活動を実施し、自主的な活動を奨励していく。	○自分の仕事に責任を持って取り組む子ども(教師・児童評価3.2以上) ○月目標を意識して実行できる子ども(教師・児童評価 平均3.2以上) ○学級や学校、地域をよくするためにすべきことを考える子ども(教師・児童評価 平均3.2以上) ○自分たちで考えて行動ができる子ども(教師・児童評価 平均3.2以上)	4 4 3 3	○係や当番、委員会活動などで、自分の仕事に責任を持たせ、やり遂げることの充実感を味わわせることができた。 ○各月の生活目標の振り返りをもとに、実態に応じた目標を設定し、全校で取り組む意識をもたせることができた。 △行事等でお世話になった方への感謝の気持ちを育むことはできたが、今後は、地域をよくするための行動力が課題である。 △自ら考え行動するために、話し合い活動や各行事での主体的な態度の育成を推進していく必要がある。	A A A A	・自己評価は適切である。 ・子どもの笑顔は地域の宝であり、地域の行事や子ども食堂も子どもの居場所として活用してほしい。 ・地域の温かい支援体制を感じる。 ・地域の行事に参加する子ども達が増えていることを感じる。 ・児童一人一人が責任をもって行動することは良いことだと思う。 ・自分たちで考えて行動できる子どもがもっと増えてほしい。	・2部会での協議をもとに、更に児童の実態に応じた月目標の具現化を図り、振り返りを児童と共有していく。 ・他学年交流や縦割り活動を充実させ、様々なつながりの中で、自己有用感や達成感を味わわせていく。 ・保護者や地域とのつながりを大切に、各行事を通して感謝の気持ちを育てていく。 ・学級会での話し合いの進め方、折り合いの付け方等を定着させる。	
	体づくり	○体育の学習や学級での運動(遊び)に目標をもって取り組ませる。 ○命を守る意識と方を高める健康・安全・防災・食育指導に年間を通して取り組む。	○目標に向かって取り組める子ども(教師・児童評価 平均3.2以上) ○自他の健康に気をつけ、給食を完食する子ども(教師・児童評価 平均3.2以上)	4 4	○進んで体を動かし、チャレンジすることを意識することができた。休み時間も学級遊び等、元気に体を動かす児童が多い。 ○給食週間には調理員や食に対する感謝の気持ちを表し、給食もよく食べており、ほぼ残菜なしである。	A A	・自己評価は適切である。 ・運動場、体育館と設備も充実しているので、今後も十分に活用して遊んでほしい。 ・学習面だけでなく、体育の時間や休み時間等、体を動かすことにも力を入れているのは非常に良いと思う。	・心身の健康増進のための外遊びを奨励し、体育学習の更なる充実を図る。 ・時期に応じた体力向上タイム(業間走、縄跳びチャレンジ等)により、児童に伸びを実感させていく。 ・体育委員会や保健委員会の自発的な取組を推奨していく。	
	いじめ防止	○「ありがとうの日」や「感謝の言葉」の取組と可視化の工夫、子ども同士が話し合い解決する力を高める指導を実施する。 ○指導、支援が必要な事案について即日対応し、組織的対応と情報共有を徹底する。 ○アンケート(保護者、児童)の定期的な実施	○学校生活アンケート 友達・教師との関係平均1.0以上(ポイント範囲+1.5～-1.5) ○いじめ未解決案件0件	4 4	○友達や教師と、それぞれ良好な関係を築いている。 ○気になる児童を全職員で共通理解し、早期の個別対応を行い、保護者や関係機関とも情報共有し、連携を取りながら対応することができた。	A A	・自己評価は適切である。 ・楽しい学校生活を送ることができるよう、地域としても協力したい。 ・先生方の目が行き届いていて感謝している。	・生徒指導上の気になる事象や配慮を要する児童の早期発見・早期対応のための関係機関との協働体制をさらに充実させる。 ・家族や友達、先生、地域の方など、感謝の気持ちを表す時間を随時設定していく。	
	不登校防止	○一人一人が活躍する場を設定し、個性を認め合う仲間づくりを行う。○担任、生徒指導担当、養護教諭、管理職が連携し、日常的に情報交換していく。 ○職員間の情報共有をもとにして、関係機関と連携した支援を実施する。	○学校生活アンケート(登校意欲平均1.0以上)(ポイント範囲+1.5～-1.5) ○不登校傾向、不登校児童の減少	4 3	○登校意欲は高い状態で推移している。各行事や活動等における評価の場を設けたことも効果があったと考えられる。 △休みがちな児童に対する支援を、今後もSCやSSW、関係機関と連携を取りながら継続する必要がある。	A A	・自己評価は適切である。 ・ハートフルルームの活用のためには、冷暖房の環境整備が必要である。 ・児童数が少なく、児童一人一人によく目が行き届いていると思う。	・ハートフルルームを活用しながら、心理的に不安定な児童への個別の面談やカウンセリング等、関係機関との連携を継続していく。 ・児童一人一人を大切にされた支援を、担任だけでなく全職員で意識し、日常的に声かけしていく。	
	働き方改革	○水曜日以外には原則職員を集めた会議は行わず、学級事務の時間を確保する。 ○諸活動のスリム化や、2部会による役割分担・協働体制づくりを行い、業務の効率化を図る。	○定時退校日を実行する職員の向上 ○超過勤務1割減(前年度比較)	3 2	○校時や会議、研修の時間を工夫したことで、昨年度に比べ、教材研究や事務的な業務の時間を確保することができた。 △超過勤務時間1割減を達成することはできなかったため、行事の精選等を更にすすめる必要がある。	A B	・自己評価は適切である。 ・人員不足を解消することが、時間外勤務も減らすためには不可欠である。 ・先生方の休みが充実した方が、子どもたちへの指導にも良い影響があると思う。	・業務の効率化のためのデータ共有を推進するため、フォルダ管理・整理を行う。 ・非常勤職員を有効活用し、職員の負担軽減を図る。	

◇ 評価について

- ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%～90%) 2：もう少し(60%～70%) 1：できていない(60%未満)
- ・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
領域	評価の観点	評価指標 (①取組指標または②成果指標)	評価	結果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策 (案)	
総括	教育課程 学習指導	計画的な教育指導の実施及び評価	週指導計画案の提出による量的・質的管理に関する指導助言(毎週)と、教室訪問や各種学力調査等の結果による実施状況の確認(随時)	4	○ 週指導計画は担任が提出後、三者で確認し、コメントによる指導・助言を行った。また、学力調査等も、問題や結果等を全職員で確認する時間を設けた。 △ 前年度越え児童 80%は達成できなかったが、標準スコアが50を超える児童が増えた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 学力は向上している。目標が高かったので、来年度の目標設定を考慮する必要がある。 今後もゆとりある充実した授業を行ってほしい。 	
		効果的な学習指導の工夫	主題研修や授業形態(TT、少人数授業)の結果として学力調査(算)における前年度越えの児童80%	3				
	進路指導	小中一貫の9か年を意図した教育の推進	校内研究を中心とした、基礎基本の定着を図る授業の実施及び小中連携会議・交流会等の実施(年3回)	3	○ 全学級で公開授業を実施。小中連携では中学校より出前授業あり。 ○ 委員会や係の当番活動は、ほとんどの子どもが責任をもって果たすことができた。	A		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 基礎基本の定着は反復トレーニングしかないと思うので、その時間をきちんと取れば成果は出ると思う。
		キャリア教育の充実	委員会活動や係活動などによる、はたらく意義の理解と個性の伸長	3				
	生徒指導	基本的な生活習慣の育成	平原4実行運動(あいさつ、名札、くつ並べ、黙々清掃)の教師評価3.0以上	3	△ 年間を通して平原4実行運動に対する意識をもっと高めていく必要がある。 ○ 生活アンケートやチェックリストを活用し、児童の変化の早期発見に努め、気になる児童については、情報を共有した。	A		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 引き続き4実行運動を行っていけば、成果は出てくると思う。
		児童理解・教育相談の充実	教育相談週間の確実な実施(最低学期に1回)	3				
		問題行動への組織的な対応	管理職・担任を中心とした迅速で的確な対応と職員全体での情報共有(定例月1回及び随時)	4				
	保健管理	健康教育の充実	健康指導・性教育の学年に応じた実施、高学年での薬物乱用防止教室の実施	4	○ 年間計画に沿って、けがや病気に対する対処法などの指導を実施した。 ○ 栄養士を中心に食育の充実に努め、定期的アレルギー会議を実施している。	A		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。
		学校給食の管理と食育の推進	委員会活動を通じた日常的な食育の推進と食物アレルギー対応の取組	4				
	安全管理	登下校時の安全対策	定期的な通学路点検、見守り隊・PTAとの連携及び非常時のお便りやメール配信による情報提供	3	○ 定期的な通学路点検及び見守り隊との情報交換を行っている。 ○ 毎月の安全点検の確実な実施と危険箇所等への迅速な対応を行った。 ○ 年間計画に基づく、避難訓練・交通教室等及び日常的な安全指導を行った。	A		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 見守り隊による登下校時の見守り活動は、大変充実していると思う。雨天時も見守っていたら大変感謝している。
		施設・設備の安全点検の実施	毎月の安全点検の確実(100%)な実施及び危険箇所の迅速な修復	3				
		安全教育の実施	各種教室(交通安全、防犯)や避難訓練(地震・火災、不審者対応)などの計画的な実施	4				
特別支援教育	特別な支援を要する子のニーズに合った支援の充実	保護者の要望を受け入れ、周囲の児童の理解を図りながら行う教育支援	3	○ 通常学級における支援の必要な子どもに対しても特別支援教育支援員等により支援の充実を図っている。 ○ 児童本人や家庭の事情など、ケースに応じて各関係機関との連携を図った。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 		
	指導体制の整備	SC・SSW、児童家庭課・児童相談所など関係機関との連携	4					
組織運営	校務分掌の機能状況	各主任のリーダーシップの発揮と連絡・調整による共通理解・共通実践。(2部会の実施 毎月1回)	3	○ 各分掌は責任をもって役割を果たし、2部会もリーダーを中心に機能している。 ○ 基礎基本の確実な定着や主体的に学ぶ意欲を育てるための授業改善を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 		
	学級・学年経営の充実	重点目標達成に向けた自己評価表の実施状況の評価・改善(年3回)	3					
研修	校内研修の充実	全担任の授業公開と主題研究の日常化	4	○ 年間の研修計画に沿って、各種研修会を確実に実施した。特に県内の教職員の不祥事を事例に挙げ、日常的に注意喚起しながら取組を強化した。 △ 自己研鑽のための経験年数に応じた研修への参加は、やや不十分だった。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 全担任の授業公開と主題研修の日常化は、非常に良いことだと思う。担任次第で学力が上下することはあまり好ましくない、どんどん取り組んでもらいたい。 		
	一般研修(危機管理・不祥事防止を含む)の推進	一般研修や不祥事防止研修、食物アレルギーなど危機管理に関する研修の計画的な実施	4					
	キャリアステージに応じた職能研修の充実	教育センター等の専門研修や各種研修会への積極的な参加や論文応募への呼びかけ・支援。	3					
教育目標 学校評価	教育目標、各教育活動における達成状況	教育活動における振り返り(アンケート)の実施と課題の分析	4	○ 児童・保護者へのアンケートを実施、要望の把握と改善に努めた。 ○ 年3回の教師評価と、教師評価に基づく学校評価を行い、改善に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 		
	学校評価の実施と改善の状況	学期ごとの児童・教師評価を基にした自己評価、学校関係者評価の実施と改善策の策定	4					
情報提供	各種お便りとM-ボード等による積極的な情報の発信	各種お便りの配布とMボードによる学校の取組紹介	4	○ 年間を通して、学校の取組をMボードで定期的に発信することができた。 ○ 地域の運動会や平原フェスタ、どんど焼き等でのまち協との連携と子ども達への参加奨励を行った。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 地域の運動会、平原フェスタ、どんど焼き等、学校の協力があり、大変ありがたかった。 		
	各種会合等での学校の取組の紹介	民生委員さんの授業参観やまち協議会での学校の取組紹介	3					
保護者・地域との連携	保護者との連携状況	PTA活動や懇談会、日常的な連絡による情報交換と子どもの様子の把握	3	○ 親子学習会を通して、子ども達とのふれあいや思い出づくりを行うことができた。 △ 登下校時の見守り活動等は充実しているが、地域の方を活用した体験活動を推進していくことが必要である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 親子のふれあいの場をもっと増やせないだろうか。 平原校区のイベントは参加しやすく充実していると思う。 		
	地域との連携状況	見守り隊、まち協、民児協などとの連携や、地域を交えた行事等への参加	4					
教育環境 整備	学校施設の整備状況	特色ある教育活動実施に向けた校内施設・設備(花壇・畑等)の整備	3	○ 学級花壇を積極的に活用し、野菜等の収穫の喜びを味わうことができた。 ○ 購入備品を精選し、学習の充実が図れるように努め、校内の修繕等を計画的に行った。	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価は適切である。 机上の勉強だけでなく、野外活動や収穫作業での達成感は、その後の教育に大きく影響してくると思う。 		
	教育備品の整備状況	計画的な配当予算の執行による、新規備品の購入や修理・修繕の実施(効果的な予算の執行90%以上)	3					

◇ 評価について

- 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
- 【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである